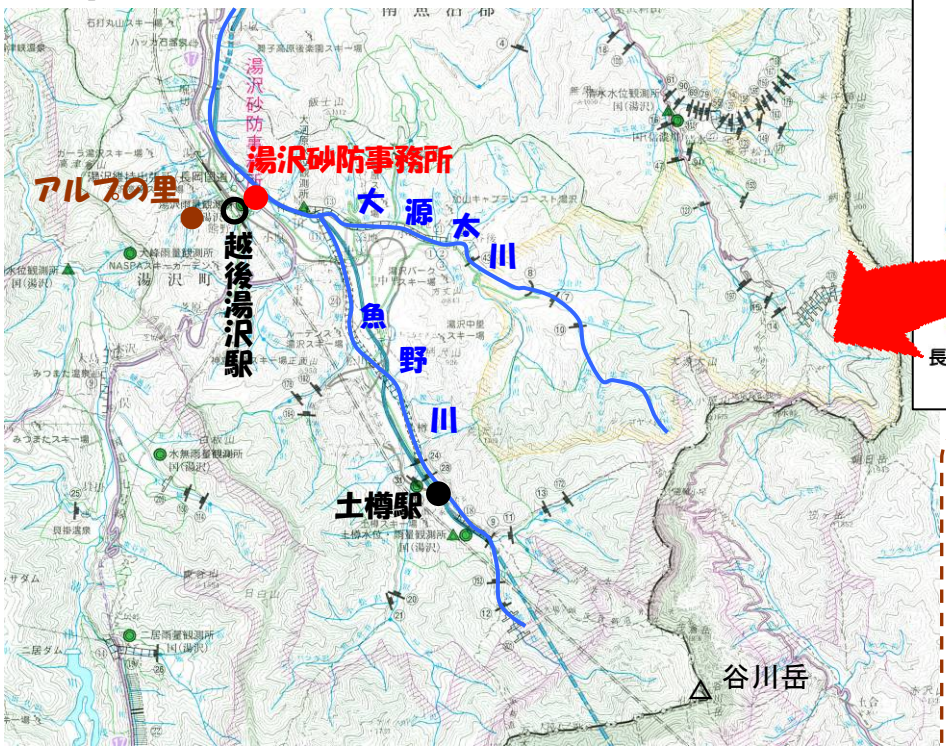
平成19年度 魚沼自然塾 第3回レポート

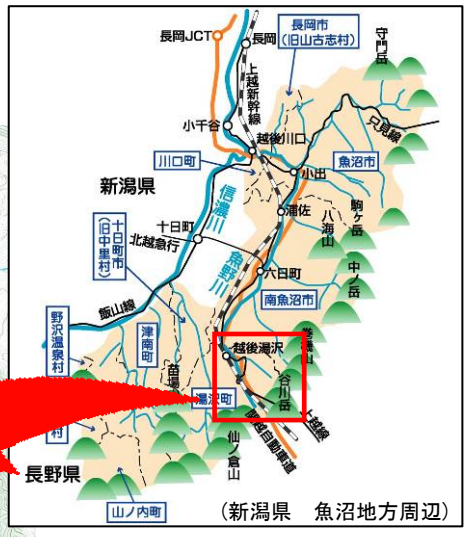
平成19年11月発行

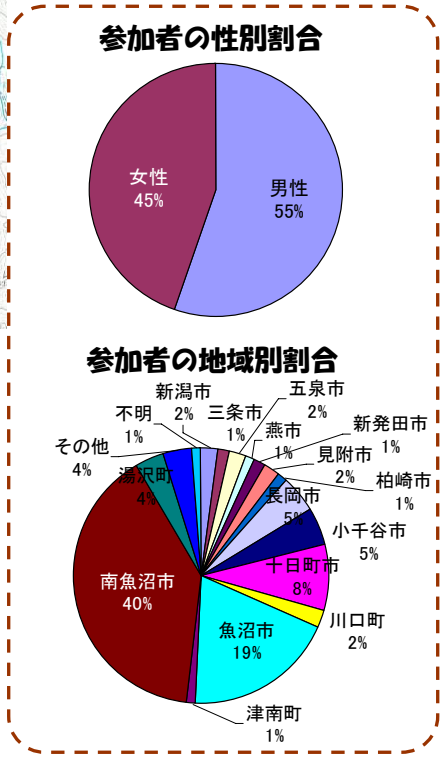
国土交通省湯沢砂防事務所

秋雨降る10月27日土曜日、「歴史的な交通の要衝－自然･温泉･文学のまち湯沢からの発信－」をテーマに、第3回魚沼自然塾を開催し、85名の皆様にご参加いただきました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、紅葉に染まるアルプの里や情緒あふれる湯沢町を味わっていただきました。また、湯沢公民館では、魚沼大水害体験者の方や街づくりに取り組む地元の方からお話を聞いて、湯沢の「昔・今・これから」について考えました。







◇◆　プログラム　◆◇

９：２０	ロープウェイ山麓駅出発
９：３５	展望レストランにて地形の説明、紅葉の話
１１：２０頃	ロープウェイ山麓駅にて、湯沢町の紹介
１１：３０頃	湯沢町の散策
１２：３０頃	湯沢公民館にて昼食、ご当地トーク
１４：１０頃	終了、解散

受付風景

世界最大級166人乗りのロープウェイで山上を目指します

雨が降っていても、ロープウェイから眺める景色は最高。色づいた木々に目を奪われます

展望レストランにて

外は雨が降っていたため、室内でのお話となりました。

高速道路や新幹線が通り、日本でも有名な観光地の湯沢町。その発展に砂防施設の整備が関わっていることについて、パネルで説明しました。

昭和 23 年頃の荒れ地が広がる魚野川･大源太川合流部（左）と現在（右）

また、自然散策のかわりに、自然観察指導員の南雲さんに魚沼の動植物のお話を聞きました。

新潟県自然観察指導員の南雲敏夫さんと、当日出没した猿たち

＜＜参加者の感想～展望レストランにて～＞＞

【砂防施設の話について】

・私は湯沢生まれ。昔は水が出ると西山の家まで魚野川の大きな石がごろごろと聞こえ、怖かった思い出がある。今は安心してられる。（魚沼市／女性）

・パネルで今の湯沢町と昔の湯沢町と見せてもらい、地形の違いがよくわかった。（女性）

・過去の水害についてはじめて知った。小竹課長の「現在は水害の危険を認識できない」という言葉に納得。山間地の生活の確保は特に「砂防」は縁の下の力持ちを実感した。（柏崎市／男性）

・大きな災害を乗り越えて立派な街づくりの基になったことを知り、ただ温泉の湧く裕福な土地というくらいの知識に反省しきり。（小千谷市／女性）

【紅葉の話】

・ふだんなんとも思わず見ていた木々色の変わりようとか、こしあぶらが黄色くなること、とても楽しく聞かせてもらった。（魚沼市／女性）

・湯沢の自然を目にして大変美しく感じた。また機会にぜひ訪問してみたい。（長岡市／男性）

・あまりに観光地化して「作り物」の感じが濃くなったと思っていた湯沢に、まだたっぷりと自然があった。この先も無くしたくない。大切にしたい。（南魚沼市／女性）

湯沢町の散策

温泉の街、小説『雪国』で知られる文学の街、湯沢の温泉街を歩きました。

にいがた観光カリスマガイドのなぐも友美さんがまずお話。

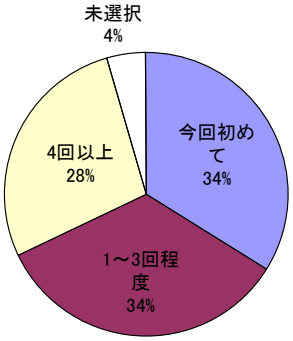
通りには足湯が３箇所。「ゆっくり出直したいね。」の会話が聞かれました。

川端康成の小説「雪国」や湯沢の昔についての資料を展した「雪国館」

4班に分かれて散策中。道路の黄色い部分は「擬似歩道」温泉街のみなさんが取り組む事業の一つです。

「なつかシネマ横丁」には、地域の方から寄せられたなつかしい玩具やポスターなどがありました。

以前に湯沢の温泉街を歩いたことはありますか？



<<参加者の感想～温泉街散策について～>>

- 車での行き帰りが常だったので、歩くことで見聞を広めることができた。（魚沼市／男性）
- ガイドさんの方言が心地良く、雨の中を気持ちよく歩けた。雨の日もいいものだ。（魚沼市／女性）
- それぞれの方が協力して開発を進めている様子が少し分かってきた。（南魚沼市／男性）
- 大変勉強になった。また、町全体で誘客に真剣に取り組んでいる印象を強くした。（南魚沼市／男性）
- 寂れつつある温泉街が多い中、街の人が足湯や立ち寄りたくなるものをつくっていることに感心。（魚沼市／女性）

湯沢公民館にて

昼食は、新米おむすびと熱々のキノコ汁

ロビーには、湯沢町を襲った災害のパネルなどを展示しました。

ご当地トーク

昭和 10 年の魚沼大水害で大きな被害を受けた湯沢町。この災害を契機に湯沢砂防事務所が誕生しました。

災害を乗り越えて、湯沢町は発展してきました。そして、これからの街づくりについて、湯沢町在住の方々に、様々なお話をお聞きしました。

＜＜お話の内容＞＞

剱持　勇さん：

昭和 10 年の災害の時は小学生でした。登校時にはすでに土砂降りで、川ももうすぐあふれそうな勢いでした。遥か遠く山の川を流れる音が教室の中までごうごうと聞こえてきました。普段、流れのない場所も濁流になり、大きな石がぶつかる不気味な音が聞こえていました。橋も流されたため家に帰れず、その日は親類の家に泊まりました。

南雲　實さん：

伊勢湾台風の時、初めて「木流し」を見ました。抱きついても手の届かないような大きな木を流したのですが水の勢いはものすごく、結局堤防が破れてしまいました。現在魚野川には砂防工事がされていますが、護岸を固めずに流れを変える方法なので良いと思います。お天気が続くと川の水がなくなる事に気付いてブナの植林などの活動をしています。

上村芳実さん：

温泉街活性化のため、「下駄履きで歩ける観光地」をコンセプトに街づくりをすすめています。ピンクの貸傘を置いたり、お客様が安全で歩きやすいよう擬似歩道をテストしたりしています。もてなしの工夫と地元の人の意識付けが大事です。

なぐも友美さん：

約 5 年間、湯沢町の観光ガイドを務めていました。一度は辞めたのですが、またやってみたいと思った時に湯沢町の方々に助けられました。夢をかなえてくれた湯沢に感謝して、恩返しのために精一杯この町をＰＲしていこうと思います。

トークの様子

話を聞く参加者の様子。資料を見ながらお話を聞く参加者もいらっしゃいました。

＜＜参加者の感想～ご当地トークを聞いて～＞＞

- 町の活性化を続けることは人間づくりの努力以外ないのだと気づいた。（見附市／男性）
- 実際の体験談を聞くことは、それが今に生かされているということが分かって良い。（十日町／女性）
- 湯沢を愛している人達の熱心さに感動！（南魚沼市／女性）
- 湯沢に日本一がたくさんあることを知り、びっくりした。（南魚沼市／女性）
- 生まれた時から山、川は遊び場のひとつだったが、プロに話を聞くと、この歳になっても大きな興味、生きる楽しみ、勉強をする指針を感じる。（南魚沼市／女性）
- 災害について改めて認識を深めることが出来た。（湯沢町／男性）

編集後記

今回は、案外気付かれていない湯沢の自然と地域の人たちの活躍ぶりをご紹介させていただきました。そして、かげながらそのステージを守っている砂防事業にも気付いていただけましたら幸いです。

これまでの３回の講座で、皆様に四季の自然と雪国の人のねばり強さこそは地域の底力であることを感じていただいたのではないでしょうか。最終回となる次回は１月２６日（土）。災害に負けない、自然豊かで活気あるふるさとづくりのまとめを予定しています。どうぞご参加ください。

お問い合わせ先：国土交通省 湯沢砂防事務所「公開講座事務局」
ＴＥＬ：０２５－７８４－２０７３　ＦＡＸ：０２５－７８４－２４４１
ホームページ：http://www.hrr.mlit.go.jp/yuzawa/